



発行日：令和7年11月26日



世界でいちばん

透きとおった物語

著：杉井光

大御所ミステリ作家の宮内彰吾が死去した。宮内は妻帯者ながら多くの女性と交際し、そのうちの一人と子供までつくっていた。それが僕だ。「親父が『世界でいちばん透きとおった物語』という小説を死ぬ間際に書いていたらしい。何か知らないか」宮内の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。編集者の霧子さんの助言をもとに調べるのだが――。

なんと2学期初の図書のとびらが11月の発行となってしまいました。時がたつのは早いものですね。

私は理系クラスなのですが、最近ようやく理系としての自覚が芽生えてきたような気がします。これを読んでいる方々、遅すぎると思いましたね？私もそう思います。

今回の本紹介のテーマはそんな理系クラスの友達に聞いたおすすめの本です。

理系だって本を読みたいとき、あるんです。



光のところにいてね

著：一穂ミチ

うらぶれた団地の片隅で出会った小学2年生の結珠と果遠。正反対の境遇に育ちながら、同じ孤独を抱えるふたりは強く惹かれ合うも、幸せな時間は唐突に終わりを迎える。8年後、名門女子校で思わぬ再会を果たしたふたりは――。

本屋大賞3位、島清恋愛文学賞受賞作。